

プログラム名：トビタテ！留学 JAPAN

2年 Sさん

留学国・都市：ニュージーランド・クライストチャーチ

期間：24日間

志望動機：幼いころから女性史についてたくさんの本を読んできた。彼女たちは女性であるという理由だけで社会で輝く機会を多く奪われてきたことを知った。それから何十年もたった現在でも、ジェンダーの差は依然として残っている。特に日本は先進国の中でもジェンダーギャップ（男女格差）が大きい。その理由を探るため、日本と環境が類似しているかつ、ジェンダーギャップが小さいニュージーランドの教育機関での探究活動を希望した。

現地での生活：公立の高校に編入し、約三週間学校生活を送った。探究の一環として、放課後に教員へのインタビューを行った。

学んだこと、感じたこと：

探究以前に、学校での教育方針の違いに驚いた。現地では、自由な学習を大切にしているためか、授業が二十分行われた後、残りは自習だった。その自習のためのタスクは設定されているものの、指示通りこなしている生徒は少なかった。授業中にギターを弾いていても注意されていないことにショックを受けた。授業内容は日本のものとあまり変わりはないが、長田高校を基準としたとき、進むペースはかなり遅かった。これは、高校入試の制度がないため、様々な学力の生徒が入り混じっているからだと思う。ストレスがかかりすぎない学習環境であったため、リラックスした学校生活を送れた。

探究に関して：

現地の教員にインタビューを行った結果、マオリの文化の復興がニュージーランドのジェンダー平等に貢献していることが分かった。マオリの文化では男性のほうが上という考え方がない。そのため、女性もマオリ社会の中で重要な役割を果たしてきた。しかし、英国の植民地支配によって、その構造も最近までは崩れてしまっていた。現在、英国の支配も弱まり、マオリの文化が復興し、国民のジェンダー平等意識が取り戻されてきたと私は考察した。

